

平成28年度 第1回五島市総合教育会議議事録

- 1 日 時 平成28年7月27日（水） 午後1時30分～3時
- 2 場 所 五島市役所3階第2委員会室
- 3 出席者
【構成員】 野口市長、清水教育長、中崎教育委員、平松教育委員、吉田教育委員、林田教育委員
【事務局】 市長公室長補佐、教育委員会総務課長、学校教育課長、生涯学習課長、教育委員会総務係長

4 傍聴者 なし

5 内 容

(1) 開会

【事務局】

皆様、こんにちは。

本日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。ただいまより、平成28年度第1回五島市総合教育会議を開催させていただきます。

次第に沿って進めさせていただきますが、次第にあります協議題までは、事務局の方で進行をしたいと思います。

(2) 市長挨拶

【野口市長】

皆様、こんにちは。

平成27年4月に法律が改正されまして、新たな教育委員会制度となりました。昨年、五島市総合教育会議を設置し、総合教育会議の第一の目標でもある大綱の策定について、昨年4回お集まりいただきまして協議いただき五島市の大綱を策定させていただきました。総合教育会議では、この他にあと二つ審議事項がございまして、教育行政に関する重要な事項、教育現場で事件・事故が起きた場合にどう対応するかというような緊急的な事項となっています。大綱は昨年、策定させていただきましたので、今年は教育行政に関する重要な事項について協議いただきたいと思います。一点目が、奨学金制度の見直しを考えておりまして、これは人口減少問題対策の意味合いで総合戦略というのを策定しているのですが、その中で、子育て支援あるいは教育の振興という中で、五島市では保育料については大幅な軽減をさせていただいているのですが、経済格差がその後の格差につながらないように、給付型の奨学金になるような新たな奨学金制度をつ

くるということについても総合戦略の中でうたっております。これも教育行政に係る大きな柱になりますので、皆様方のご意見をお伺いしたいと考えております。

もう一点が図書館でございまして、4年前に市長選に立候補する際にも図書館建設を公約に入れていたのですが、着手していない事業の一つであります。次の公約の中にも掲げているのですが、現在アンケート調査を実施しておりまして、建設年度についても、31年度か32年度に建設して32年度から供用開始できないかと考えていた矢先に、実は熊本地震がありました。熊本では5つの自治体の庁舎が崩壊をして業務ができないという状態になりました。五島市も熊本並みの地震があった場合、この庁舎も崩壊してしまう状況にあります。庁舎の建て替えをするとすると財源は合併特例債というのをを使うしかないと考えておりますが、合併特例債が使えるのが31年度までとなっています。図書館建設とかぶってくる。また、緑丘小学校の改築ともかぶってくるということですので、この間事業規模が大きくなるということも踏まえて、どう対応するのかというあたりについてもご意見をお伺いしたいと思います。

それから現在、しま留学制度という事業に取り組み、久賀島で3名の子どもをお迎えしています。次は、奈留島で開始したいと思っております、現在の状況等をご報告してご意見を賜りたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(3) 事務局説明

【事務局】

事務局より、本日の会議の進め方等について説明。

それでは、ここからの進行は市長にお願いしたいと思います。

(4) 協議題 教育に関する重点施策について

- ①新たな奨学金制度の創設について
- ②「しま留学制度」について
- ③新図書館建設について

【野口市長】

それでは、ただいま事務局より進め方等について説明がありましたが、そのような形で進めさせていただけたいと思いますが、よろしいでしょうか。

本日の協議題としまして、教育に関する重点施策についてということで、3つあげております。3つとも教育委員会が策定しました「第二期五島市教育振興計画」の中で重点施策にあげられている施策になりますが、まず、新たな奨学金制度の創設について、現在の検討状況の内容について事務局より説明をお願いしたいと思います。

【事務局】

現在、検討している3つの案（「五島市奨学金等返還支援助成交付金」、「五島市給付型奨学金」、「五島市海外留学奨学金給付制度」）について説明。

【野口市長】

現在考えている奨学金制度の案が3つあるということでございまして、まず「五島市奨学金等返還支援助成交付金」につきましてご協議をいただきたいと思います。現在の五島市の奨学金は、貸与型で大学生等に対して月額4万円を4年間貸付けます。返済は2倍かけて8年間で2万円ずつ返済してもらうという形となっています。案では、この金額を元に助成金の金額として月額2万円で上限24万円としているようです。高校と大学の両方で借りた場合は、上限を超えるという形になります。また、公務員になった人は対象外ということになっておりまして、たしか諫早市だったと思うのですが、以前こういう制度を行ったところ市役所の職員がたくさん対象者となり問題になったという経緯があると聞いています。それでこの案でははじめから明記して除外しているとのことなんです。

これは、優秀な子ども達に五島に帰ってきていただきたいという意味で制度設計されているようです。24万円という助成額が五島に帰ってきていただくという材料のひとつになるのではないかと思います、この案についてご意見をいただければと思います。

【吉田委員】

以前、教育委員会定例会の中で質問したこともあるのですが、奨学金の滞納額がどれくらいあるのかお尋ねしましたところ1千万円を優に超えると聞いております。奨学金を借りて一生懸命勉強し社会に出て、なおかつ奨学金の返還に大変苦勞しているという実態があるようです。やはり、五島市としては一人でも多くの人にUターンあるいはIターンしてもらいたいということもあると思いますが、私はこの案はぜひやっていただきたいという思いがありますし、財源のこともあり対象人数におそらく制限があると思いますが、できる限りの人数調整をしていただいて一人でも多くの方が対象となるようにしていただきたいと思います。五島市に帰ってきて仕事をするあるいは自ら起業するというので、期限が8年とありますが、それ以上に定住していただくということが大事なのではないかと思うので期限を拡充しても良いと思います。

【野口市長】

27年度の償還額や貸付額、滞納額はどれくらいになりますか。

【事務局】

詳細は手元に資料がなくわかりませんが、27年度末の滞納額としては前年度より百何十万か増えまして19,000千円台となっています。人数は80人程度です。今年度の貸付者としては、大学等で8人、高校で9人です。貸付者については、高校の無償化も関係があると見込んでいるのですが、奨学金の申込者は減少傾向にあります。

【野口市長】

滞納している人はこの制度の対象になりますか。

【事務局】

案では、奨学金や市税の滞納者は対象外としています。対象になるとすれば滞納を解消した後

に申請があれば対象とはなりません。正規の償還計画に沿った返還額を対象とすることとしています。

【野口市長】

この制度をやりだしたとして、市の負担額は年間どれくらいを想定していますか。

【事務局】

Uターン者の見込みが難しいのですが、現在の五島市の奨学金の実績として、貸与者の約2割が五島市に住所を置いている状況です。それを踏まえるとUターン者として年間6人程度が想定できます。また、案では五島市の奨学金だけでなく国などの奨学金も対象としていますので、Iターン者を2名程度と見込んで年間8人が対象となった時に毎年8人ずつ対象となると、8年後の最大で年間13,000千円程度になると見込んでいます。ただし、対象者になる人数の想定が難しいです。

【野口市長】

例えば、他の県や市の人が他の県や市の奨学金を借りていて、その人が五島市に来て就職し、その奨学金を返済していた場合も対象になってきますか。五島出身に限らないということになりますか。

【事務局】

人口減少問題対策も兼ねていますのでIターン者も対象となるようにしています。

【中崎委員】

五島市の場合、人口減少が進んでいて歯止めをするということが行政の課題になると考えた時に、こういった制度は一助になるのではないかと思います。できるだけ若い人に五島市に住んで働いてもらおうということに役立つのではと思います。ただし、公務員は対象外ということで、諫早市の例もありましたが、五島市に住んで働くということでは条件は一緒なので対象外にするのはどうかと思います。五島市の他の産業と比べて給料が高いということも考えられてのことだとも思いますが、少し考えた方がよい気はします。

【野口市長】

所得水準としては地場の企業に勤めている人よりは高いという状況はあります。該当するのが市職員、県職員、自衛隊職員、教員などがあげられると思います。

【平松委員】

私の息子も大学1年生で、周りで聞くとほとんどの家庭でどこかの奨学金を借りているようです。親が集まって話す時には、奨学金を返せるのだろうかということや、奨学金を返せるだけの職に就けるのだろうかということが話題になったりします。五島市に戻ってきたらの場合ですが、こういう制度があると家庭は助かるのではと思います。

【林田委員】

私もこの制度は賛成です。冒頭の市長の挨拶の中でもでてきましたが、子育て支援で女性が社会の中で活躍していくためには、保育サービスを充実させなければならないと考えています。そのために子育て支援というのはとても大切なことで、五島市では保育料の軽減を大幅にしていただいて、それですごく保護者の方は助かっていると思います。それによって、子どもが保育所にたくさん途中からでも入所している状況になってきているようです。実際に現実的なことを申しますと保育士がいない。保育士不足の問題は五島市だけではなくて長崎県内どこもそうですし、全国的にも社会問題になってきています。実は、長崎県で保育士の修学資金の貸付制度というのが今年度できまして、これは保育科、保育養成校に通う学生に対して月5万円の貸付けをして、卒業した後に県内の保育所等に就職したら返さなくて良いという給付型のような奨学資金になります。長崎県内の長崎市や佐世保市に就職するというよりも五島市に帰ってきて就職していただかないと五島市の保育士問題は解決しないわけです。個人的な話になりますが、私の園でも4、5年新卒採用ができていない状況です。市内の保育所を見ても年齢がどんどん上がってきています。とにかく若い人に保育士になっていただかないと、おそらく今の保育士の年齢があがって定年になると保育士がいなくなるという状況になると思います。保育料の軽減とか子育て支援に力を入れても保育士がいなければ子どもは保育園に入れない状況がでてくると思います。それで五島市に帰ってきて保育士になる人が増えないかと思うので、働く側の支援であるこういった制度ができることは賛成です。

【清水教育長】

私も賛成です。こういった制度があるということを知って出ていきますと、五島に帰って頑張るぞという意識を持って学生生活を送ると思います。そして地域に帰って自己実現を図って職場で頑張る、その後家庭を持つようになると人口減少という面からも、1人を救うことによって3人、4人と増えていくということにつながると思いますので有益な制度ではないかと思っています。

【野口市長】

先ほど中崎委員から公務員を除くことについて意見がでましたが、皆様はどうお考えですか。

【清水教育長】

現実的に五島市では公務員の所得の方が高いと思われるので対象外として良いと思っています。

【中崎委員】

状況としては同じだと思いますので差別みたいな感じもします。

【吉田委員】

市の職員の応募はやはり多いのですか。

【野口市長】

多いです。一般職では3～4倍くらいあると思います。ただし、土木職などの特定の技術職の時に応募がないということはあります。

【吉田委員】

それでは、職員不足ということには陥らないということになりますね。五島市の企業と比べると公務員の給料が高いと思われ、悩ましいところではありますが、人員を確保するという観点からでは対象外としても現在の状況だと問題ないかと思います。

【野口市長】

このことについては今後考えていきたいと思います。

こういった制度があるのであれば、来年度の4月からたくさん借りる人がでてくるのではないかと考えるのですが、早めに制度を作ってオープンにしないではいけません。予算を確保するまではオープンにはできないものですか。

【事務局】

通常は、来年度の奨学金の募集は3月1日から広報をして募集しますので、こういった新しい制度について、早めに制度化しておけばPRはできると考えます。

【野口市長】

それでは、次の「五島市給付型奨学金」についてですが、これは成績が特に優秀で、家庭の事情によって進学をあきらめていたような子どもがもったいないということで、社会を引っ張っていけるような人間になって巣立っていただきたいという奨学金になります。成績の基準でセンター試験の国英数が8.5割以上となっていますが、これはけっこう高いようですね。保護者の年収はどれくらいを想定していますか。

【事務局】

年齢構成にもよりますが、だいたい4人家族の場合で年収800万円程度になると思います。

【野口市長】

高校のときは優秀だったけれど、大学に行って遊びだして卒業できなかった場合などはどうなりますか。最初から給付型と言うのですか。

【事務局】

案の中には特に記載はしていないのですが、途中で退学した場合などは返済をしていただくことも規定する必要があるとは思っています。入学する時に給付するような形で考えています。

【林田委員】

要件の中で市内の中学生や高校生に講演をすることというのがありますが、こういうのは良いことだと思います。奨学金を給付して将来の希望を持って五島を巣立って行って、巣立って行ったら必ず帰っていただきたいというのが本音なのですが、先ほどの助成交付金の方は五島に帰って就職するということが対象の条件になっていますが、この給付型の奨学金の方も優秀な人は卒業した後は五島に帰って来ていただきたいと思いますので、条件として五島市に帰ってくるとしても良いのかなとは思っています。

【平松委員】

最初から給付型とするということですが、大学に行って進級できなかったということも聞くのですが、そういった場合の条件整備は必要なのではと思います。また、所得条件も高いような気がします。給付なので厳しい条件を付けた方が良いのではと思います。大学に入ってから生活とか勉強に向かう姿勢が重要だと思いますので、そこが見えないので制度設計が難しいとは感じます。

【野口市長】

退学したら返してもらうことになると思いますが、進級できなかった場合はどうなりますか。

【事務局】

貸与型でいくと4年間という正規の在学期間があって、毎年度、在学証明書を提出してもらっているのですが、仮に留年したとしても4年間は貸与するという形をとっています。しかし、この制度は給付型なので進級できなかったらその時点で返してもらう形にすべきだとは思っています。例えば、病気とかなどは特殊事情ということになるかと思いますが、不真面目で進級できなかったりしたら返してもらうのが筋なのかと思います。決定する時にグローバルな人材になると見込んで給付することになるので、先のことが見えないところがあり難しいところがあるので、この案ではそういった所を整理していかななくてはいけないかと考えています。

【野口市長】

今、理系の大学では大学院まで行っているようですが、大学院での2年間は対象にはなりませんか。

【事務局】

4年間で考えていますので大学院の2年間は想定していません。ただし、今年度開催した奨学生審議委員会で委員である五島高校の校長からもご意見をいただいたのですが、理系の大学に行っている学生はほとんどが大学院まで行っている状況だそうです。大学院の2年間も奨学金の対象となれば保護者の負担も軽減され喜ばれるのではないかという意見もありましたので、貸与型にしても、給付型にしても今後考えても良いのかとは思っています。

【野口市長】

平松委員からは、所得基準が高いのではないかと、本当に経済的に困っている世帯に焦点をあて

た方が良いのではないかという意見がありましたが、その辺りも考えた方が良くかもしれません。

【中崎委員】

目的の中にでてくる経済的な理由によりというところを、もう少し厳しく見た方が良くかと思えます。今の制度設計では、所得基準が貸与条例と同様の基準ということですが、五島市のほとんどの世帯が対象になってしまうということになるかと思えますので、目的が弱まってしまおうと思えます。

【吉田委員】

国などでも給付型奨学金は検討されているようですけれども、給付型に関しては私も賛成ではあるのですが、際限なくやるのではなく、ハードルを高くしてやるべきだと思います。対象人数についても若干名を想定しているようですので、その辺りは考えていると思いますが、途中でやめたり留年したりすることがでてきた時には、保証人等にも返済してもらうなどの形にするなど対応を考えていた方が良くかと思えます。

【野口市長】

現在、大村市に給付型の制度があるようですが、基準が高くてここ3年で1人しか対象がいなかったということもあるようです。

【事務局】

この案を作っていく際は、大村市の制度を参考にしております。大村市の基準が高くて対象者がほとんどいないということや五島高校の成績状況も踏まえて、若干成績基準を下げて設計しています。

給付型奨学金については、国の方も来年度の予算編成に向けて検討するという事になっているようですので、国の動向を見ながら考えていく必要があると思っています。

【野口市長】

所得基準をもう少し考えた方が良くかもしれませんね。統計上、五島市の年収ごとの世帯別状況のようなことがわかったりしますか。税務課とかでわかるかもしれませんね。その辺りも参考にしながら検討しても良くかもしれません。

【野口市長】

それでは、次の「五島市海外留学奨学金給付制度」についてですが、これは海外留学をした場合に留学費用を給付するというものですが、これは所得要件はないのですか。県内でやっている自治体はありますか。

【事務局】

所得要件はないです。県内でやっているところもないです。

この制度は、現在五島市が取り組んでいるプロジェクトGの英語教育に関連して設計したもの

になります。英語教育に力を入れているところがありますので、さらに推進していくことを考えて、留学をして英語力を高めたり、世界を見て見識を広めるということを目的としています。大学については、語学留学などの短期間の留学は対象外としています。

【野口市長】

事務局の案では、対象となるのは五島の高校を出た人だけではなくて、親が五島市であれば高校から市外の高校に行っている人も対象にするということのようです。例えば、親が五島市在住で息子は長崎東高に行きました。その子が大学で留学しましたという場合でも、親が五島市に税金を納めているので対象としているとのこと。そこまで対象にするのか、五島の高校を出た人のみを対象とするようにしてはどうかという考え方もあります。

例えば、奈留高校の魅力化事業に関連して、親が長崎市在住でしま留学により奈留高校に来た場合は対象となりますか。

【事務局】

そこは、人口減少問題対策の一環として対象になるようにした方が良く考えます。

【野口市長】

親か子どものどちらかが五島市に住民票があれば対象にしていくという考え方になるようです。これは、実施するのかもしれないのかも含めて再検討した方が良く考えます。事務局としては、県の事業である奈留高校の魅力化に関連して、奈留高校は英語を魅力として打ち出していくようですので、売りのひとつになればと考えて制度設計したようです。考え方として、大学は除いて高校だけで良いという考え方もあるかと思えます。

【吉田委員】

五島市が英語に力を入れていることや奈留高校の魅力化の観点からは、面白い取り組みだとは思いますが。

【平松委員】

私の知り合いの子どもで海外に留学した人がいるのですが、自主的に行っているのか強制的なのかはわかりませんが、英語教員の資格を取るのに海外に一度行かないと資格をとれないという話を聞いたことがあります。案では6か月以上の留学を対象としているようですが、短い期間の留学は対象にならないのですか。また、所得制限はないということですが、所得制限もつけた方が良く思えます。

【事務局】

大学の場合は短期間の語学留学は対象外と考えています。単位をとるとか学位を取得するとかの場合に対象としています。高校の場合は短期間の語学留学も対象としています。

【野口市長】

仮に、多くの申込みがあった場合は所得や成績の基準もあった方が良いでしょう。

【林田委員】

五島市が英語教育に力を入れているという観点から考えると高校生だけでも良いのかなという気がします。対象者をしぼって、代わりに金額をあげるとかの対応もできるのではないかと思います。

【清水教育長】

五島市が取り組んでいるプロジェクトGの関心を高めるためにも良いことだと思います。子ども達の意欲向上にもつながるのではと思います。高校生向けの取組の方がプロジェクトGへの関心が高まってくるかと考えます。

【野口市長】

大学生向けは見送って、高校生に特化した形で制度設計してはどうかという意見が多いようです。他に、奨学金関係で何かご意見等はございますか。

それでは、ただいまのご意見等も参考としながら、今後制度設計を検討していきたいと思えます。

次に、二つ目の協議題であります「しま留学制度」について、現在の取組状況等の説明を事務局よりお願いします。

【事務局】

久賀島及び奈留島での取組状況を説明。

【野口市長】

現在実施している久賀島でのしま留学の場合、里親に市から6万円助成し、実親から3万円いただいています。子ども一人につき9万円が里親に入るという状況です。今年度から取り組む奈留島では里親の応募状況は、常時預かりが1世帯で、臨時預かりが1世帯という状況のようです。今年度、実際預かっている久賀島では、常時預かりが2世帯で臨時預かりが2世帯ということのようです。久賀では常時預かりが2世帯で、しま留学生在が3名いますが、小学生2人と中学生1人という分け方になりますか。

【事務局】

女の子が1人いますので、女の子の小学生1人と男の子の小学生と中学生の2人という分け方になっています。

【野口市長】

里親の確保が一番のネックになっているのですが、いろんな要望も含めまして何かご意見等はございますか。

【吉田委員】

久賀が1年先行して実施していますが、非常に良い話ばかり聞くものですから奈留としてはどう受け止めたらいいいのかというのがあります。奈留の場合は、しま親という呼び方をしています。現在、しま親募集をかけていますが、なかなか手を挙げるところがないというのが現状です。この拡大を何とかやっていかないと、子どもを募集して子どもは集まってもしま親がいないという状況になっては大変なことです。これと併せてまちづくり協議会の中で、しま留学に対して独自のバックアップをしようという取り組みも奈留支所の方でやっていただいております。期限までにはしま親を集めるという覚悟でやっていこうと思っています。また、県の事業で奈留高校の魅力化事業がありますが、平成30年度に生徒を募集するとも聞いておりますので、そこも含めて小中高一貫で市のしま留学と県の魅力化事業とうまくかみ合うようにやっていければと思います。

また、しま留学では隠岐の島の島前高校の例を良く聞きますが、子どもが来て、それに親もついて来て定住したという例もあるようです。そういう展開になれば大変良いことだと思います。

【野口市長】

親がついてきた場合は、空き家を紹介できますし、改修などの助成金の制度も五島市にもありますので、うまく活用できればと思います。久賀では家を改造しなければとか、そういうのがネックになったことはあるのですか。

【事務局】

久賀ではそういった問題はなかったです。子どもが巣立った家ばかりでしたので、部屋は余っているという状況でした。

昨年、三島村という所に視察に行った時には、そこは最大で里親が6名の子どもを預かっていたという話を聞きました。そこは子供部屋用として増築をしていたようです。その増築にかかった費用に対する助成はあったのかは聞かなかったのですが、場合によっては改修の費用がかかることもあるかと思います。

【吉田委員】

子どもを受け入れるときの家の改修なのですが、以前奈留で体験学習ということで前島に子どもが来たことがあったのですが、民家でトイレを借りたら水洗トイレではなかったのが、子どもが怖がってできなかったということがありました。都会の子ども達はそういったことも想定されるので、水洗の洋式トイレにするくらいの改修は必要になるかもしれません。

【事務局】

留学生を受け入れるにあたっては、実際に見学に来てもらうことを条件にしています。トイレ等も含めてこんなはずじゃなかったというようなことがないようにしているところです。必要な改修については考える必要があるかと思います。

【野口市長】

久賀、奈留にお知り合いの方がいれば、ぜひ里親をおすすめいただければと思います。

それでは次の協議題に入りたいと思います。「新図書館建設」についてですが、進捗状況等の説明を事務局よりお願いします。

【事務局】

新図書館建設に係る進捗状況等を説明。

【野口市長】

4年前に市の方で議会へ提案をしたのですが、贅沢すぎるのではないかというご意見もあり予算を取り下げたという経緯がございます。私も市長になって建設しますということでお話ししていたのですが、大型施設が急にでてきたりということで本日に至っております。岐宿の統合小学校は今年度で終了する予定ですが、緑丘小学校の改築が本格化し31年度まで、ごみ焼却施設が29～30年度に入ってきます。30～31年度に市役所の本館がおそらく入ってきます。これらと図書館がダブってくるということが考えられます。このことも念頭に置きながら、どういった図書館にしたら良いのか、大まかなことでも構いませんのでご意見を頂戴できればと思います。たぶん、今の図書館も熊本並みの地震がきたら壊れるのではないかと思います。

【平松委員】

子どもが小さい時からよく利用させてもらっているのですが、今の図書館は駐車場が狭くて車が止められなかったことが結構ありました。母親達は新しい図書館ができるのを楽しみにしているようです。中学生や高校生がゆっくり勉強できる場所がほしいとも聞いたことがあります。

【野口市長】

諫早の図書館に行った時なのですが、高校生がたくさん勉強していました。五島病院の跡地に建設することになれば、五島高校と海陽高校の生徒が勉強できると思いますし、小学校も福江小学校と緑丘小学校の真ん中になるので便利なのかとは思っています。

【吉田委員】

今の図書館は、旧福江市からの図書館で25年程度経っていると思います。昔はホテルだったところだと思います。耐震化のこともありますが、中に入ると非常に古くて狭いという感じがします。蔵書もあれ以上詰め込みもできないと思いますし、財源の問題もあるかと思うのですが早急に建てるべきだとは思っています。

【中崎委員】

私も新図書館を楽しみにしている一人なのですが、以前の計画が反対運動もおこったこともありますので、アンケートなどを十分検討して着実に進んでいくように望んでいます。

【野口市長】

事業費でいくと、以前の計画時からは資材や人件費が上がっているようですので、規模を小さ

くしても金額がそう小さくならないような気もしています。消費税も建設時には10%になっているかと思えます。

【事務局】

建設時期で考えると、総合戦略で五島市の人口ビジョンも出されているのですが、その人口推計で考えたとしても面積は縮小になるかと思えますが、建設費はそこまで下がらないような感じもします。あくまで漠然とした話であり、詳細はどうなるか詰めていませんのでどうなるかは分かっていません。

【野口市長】

五島市には小さい子どもが遊ぶ場所が少ないと思っています。特に雨が降った時です。そういった時に図書館に遊戯スペースがあると本を読んだり、遊んだりできるので良いかと思えますし、そのような声は割とあるようです。

【清水教育長】

図書館については必要な施設であるということはみなさんご承知のところだと思います。今、アンケートを実施していますので、多くのアンケートを集めて市民に説明ができるようなデータの収集が必要だと思います。他市の状況などを見ると、現在の図書館は独立ではなくて複合型が多いようですので、そういったことも含めて基本計画を策定することが大事だと思います。

【事務局】

アンケートの話がでてきましたので、現在、アンケートは集約中ではあるのですが、その中の充実してほしい設備・機能というところの報告をしたいと思えます。10%を超える項目としては、閲覧ができるコーナーで11%、調べ物ができるコーナーで10%、勉強ができるコーナーで12%、音楽や映像が視聴できるコーナーで13%、館内で飲食ができるコーナーで13%、近くに十分な駐車場や駐輪場で9%などが上位にきている状況です。

【野口市長】

他はございませんか。アンケートの調査結果がまとまったら再度教えてください。検討委員会のメンバーはどのようになっていますか。

【事務局】

基本的には前回のメンバーとしていますが、新図書館では地元産木材の使用を進めるということで農林整備課が研究・協議をずっと行っていますので、その中から一人は入りたいと考えています。決定については今後再度検討していくこととしています。

【野口市長】

新図書館については木造にしようと考えています。できる限り五島産の木材を利用する形で考えています。

それでは、時間もまいりましたので、以上で本日の協議は終了したいと思います。

(5) その他

(6) 次回開催について

【野口市長】

それでは、次回開催についてですが、ある程度時期を決めたいと思いますが事務局から何かありますか。

【事務局】

次回開催についてですが、実は教育委員の2名が10月19日に任期が終了いたしますので変わる可能性もあります。事務局としては9月市議会が終わった後の11月に開催してはどうかと思っています。次回は予算に関する次年度の事業などについて意見交換ができないかと考えています。

【野口市長】

それでは、次回開催は11月頃ということで進めさせていただきたいと思います。詳細については事務局と調整しまして決定後に通知したいと思いますのでよろしくお願いいたします。

以上をもちまして、今年度第1回目の五島市総合教育会議を終了させていただきます。どうもありがとうございました。